

薬局薬剤師の職能への認知に対する薬局利用経験の影響

福田 愛海¹⁾、中原 亜紀²⁾、小林 康二²⁾、石原 美菜子³⁾、前田 守⁴⁾、
長谷川 佳孝⁴⁾、月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1) 株式会社インファーマシーズ イン薬局 田川川崎店
- 2) 株式会社インファーマシーズ イン薬局 コンベンションシティ
- 3) 株式会社インファーマシーズ
- 4) 株式会社インホールディングス

【目的】保険薬局には地域包括ケアシステムの一翼として超高齢社会の地域医療を支える役割を求められており、そのためにも地域住民の薬局薬剤師の職能への理解を深め、信頼関係の構築に努める必要がある。そこで、地域住民の薬局薬剤師の職能への理解度を調査し、保険薬局の利用経験が与える影響を検討した。

【方法】2018年12月から2019年1月までに当社が福岡県と沖縄県で運営する保険薬局 2 店舗に来局した患者のうち、近々に院内処方から院外処方に変更となった医療機関を受診する 200 名に紙面でアンケート調査を実施した。項目は「保険薬局の利用経験」「残薬調整」「服薬情報等の提供」「かかりつけ機能」「外来服薬支援」「処方提案」「在宅対応」とした。結果は「保険薬局の利用経験」から経験あり群と経験なし群に分け、有意水準 0.05 としたカイ二乗検定および Fisher 正確確率検定で解析した。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号:AHD-0012）。

【結果】有効回答は 184 名、経験あり群は 147 名(79.9%)、経験なし群は 37 名(20.1%)であった。薬局機能への認知度は全項目で経験あり群と経験なし群に有意差はなく、「残薬調整(46.9%、32.4%)」「服薬情報等の提供(23.8%、21.6%)」「かかりつけ機能(30.6%、13.5%)」「外来服薬支援(27.2%、18.9%)」「処方提案(19.7%、21.6%)」「在宅対応(15.0%、8.1%)」であった。

【考察】薬局利用経験によらず、「残薬調整」の認知度は他よりも高く、「在宅業務」は低かった。また、「かかりつけ機能」の認知度は経験なし群の方が低い傾向があり、かかりつけ薬剤師制度は地域住民にまだ普及していない状況が示唆された。保険薬局が地域包括ケアシステムで求められる役割を果たすためには「在宅対応」や「かかりつけ機能」の発揮が必須であり、来局患者はもちろんのこと、積極的に地域住民への普及にも努める必要があると考える。

(第 13 回日本薬局学会(2019 年 10 月, 神戸)にて発表)